

## 第4回会員向け無料セミナー開催

### 「知財データの証拠性確保に利用されるタイムスタンプ」

大阪発明協会では、昨年度より会員サービスの一環として会員が無料で参加できる無料セミナーを企画し、25年度は5月に「マレーシアとベトナムにおける IP 制度と審査の現状」、6月に「ドイツの特許訴訟」、12月に「インド特許制度の概要」をテーマに開催してまいりました。今年度の第1回として、ノウハウ保護や営業秘密管理のツールとして注目を浴びているタイムスタンプをテーマに「知財データの証拠性確保に利用されるタイムスタンプ」というタイトルのもと、タイムスタンプの導入や普及を推進している株式会社サピエンティストとアマノビジネスソリューションズ株式会社に



に協力をいただき、住友クラブ多目的ホールを会場に開催いたしました。

タイムスタンプへの関心は非常に高く、当日は43名の参加者が集まりました。

前半は、株式会社サピエンティストの下出代表取締役より、「技術のブラックボックス化戦略」と題して、知財戦略を進める上で技術(知財)のブラックボックス化のメリット・デメリットについて把握し、対象とすべき技術を明確にすること、

そして管理方法を理解して、そのための体制を整え運営することが大切であること、またブラックボックス化を進める際の具体的な管理と運用として、知財の存在を証明するために公証役場やラボノート等と比較した上で、タイムスタンプが有効であることが述べられました。

後半は、アマノビジネスソリューションズ株式会社の山口学係長より、「知財データの証拠性確保に利用されるタイムスタンプ」と題して、ソフトウェア型・クライアント型それぞれのタイムスタンプの仕組みや存在証明や先使用权確保、社内文書やノウハウ



保護のための証拠性確保に至るさまざまなケースにおける、これまでタイムスタンプを導入した各企業の事例紹介を中心に、タイムスタンプの有用性について説明がなされました。質疑応答では外国における導入事例や諸外国の裁判に証拠性が通用するか、タイムスタンプ管理会社が撤退した際の対処法、平均利用数やソフトウェアのモバイル活用等、多くのご質問をいただきアンケートにおいても導入を検討するという回答も多く、関心の高さをうかがうことができました。

次回の無料セミナーは11月25日に ASEAN の特許調査をテーマに開催する予定です。